あなたのデータ作業、こんなお悩みありませんか？

「毎回CSVを手作業で集計していて、もう限界...」

「レポート作成に時間がかかりすぎる...」

「データの正確性に自信がもてない...」

非効率なデータ作業、もう終わりにしませんか？

多くの現場では、Excelやスプレッドシートでの手作業に追われ、本来の分析業務に時間をかけられていません。

今日のゴール：BigQueryで業務効率化を体験

- BigQueryとGA4の連携で大量データをラクに処理
- 手作業によるミスをなくし、正確なレポートを作成
- データ収集・分析の時間を大幅に短縮
- 自動化で定型業務から解放され、本質的な分析に集中

BigQueryとは？ Googleの超・大容量データベース

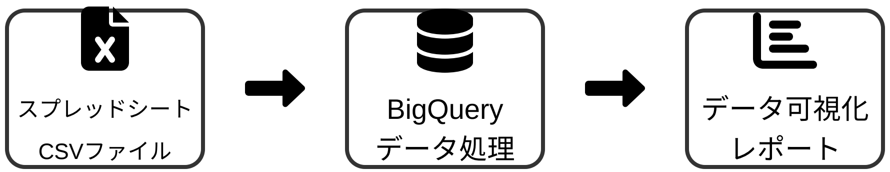
BigQueryとは

Googleのクラウドプラットフォーム GCPが提供する
大規模データ分析サービスです。

BigQueryの特徴

- 巨大なデータでも**高速処理**が可能
- データ保存とクエリ処理を**別々に最適化**
- 標準的な**SQL**で簡単に操作可能
- GA4と連携して**自動的にデータ取得**
- Googleの**高度なセキュリティ**で保護

BigQueryの仕組み



こんな人にオススメ！

- データ集計に時間がかかっている
- GA4をもっと活用したい
- 大量データを正確に分析したい
- レポート作成を自動化したい

GA4とBigQueryをつなげてみよう（GCP設定）

GCP設定ステップ

1 Googleアカウント作成

既にGoogleアカウントをお持ちの方はこのステップは不要です。

※企業でのご利用の場合は、業務用アカウントをご使用ください。

▼

2 GCPプロジェクト作成

Google Cloud Platform（GCP）にアクセス

新規プロジェクトを作成（プロジェクト名は任意）

※請求先アカウントの設定が必要です

▼

3 BigQuery API有効化

APIとサービス > ライブラリから「BigQuery API」を検索

「有効にする」ボタンをクリックして有効化

※初回はしばらく時間がかかる場合があります

Google Cloud Platformへのアクセス

https://console.cloud.google.com/

「新しいプロジェクト」ボタン

プロジェクト作成画面

プロジェクト名: BigQuery-GA4-分析用

請求先アカウント: 自社アカウント（or 個人）を選択

「作成」ボタン

BigQuery API有効化

APIとサービス > ライブラリ

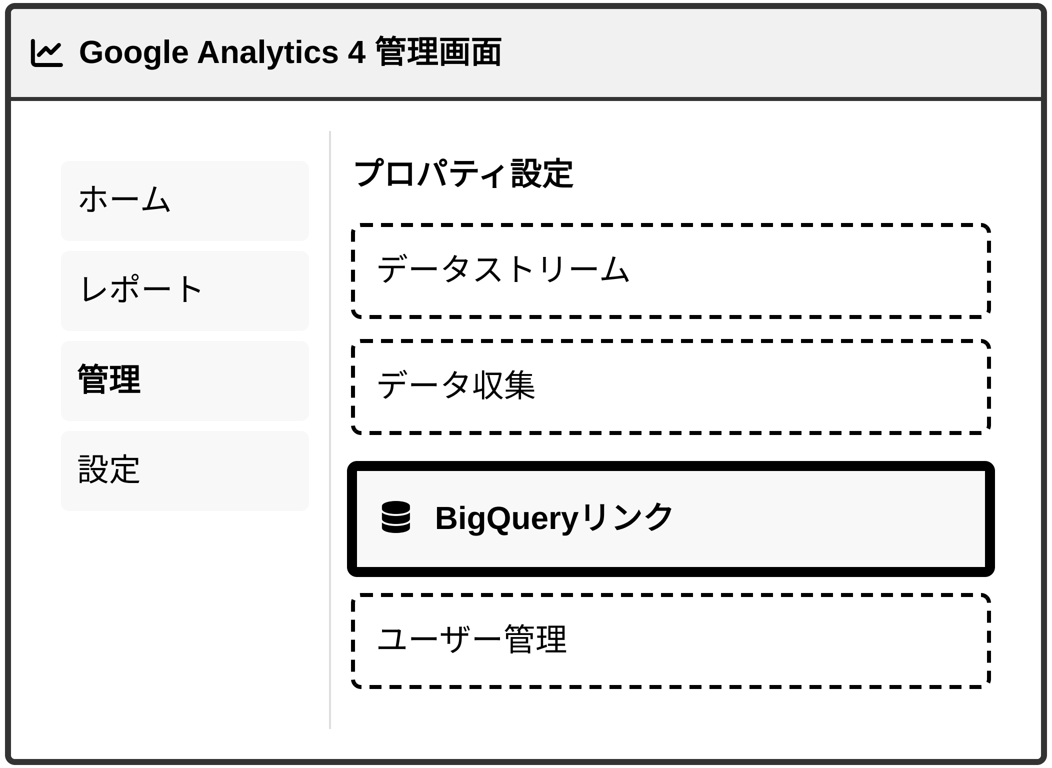
検索: "BigQuery API"

BigQuery API

BigQueryを使用するために必要なAPIです

「有効にする」ボタン

GA4データをBigQueryにエクスポートしよう



「BigQueryリンク」をクリックして設定画面へ

GA4からBigQueryへのデータ連携

GA4で取得したデータは、簡単な設定でBigQueryに自動的にエクスポートできます。毎日のデータを自動で蓄積していきましょう。

1 GA4の管理画面から「BigQueryリンク」を選択

左側のメニューから「管理」→「BigQueryリンク」と進みます

2 リンク設定

先ほど作成したGCPプロジェクトを選択し、「日単位」「ストリーミング」などのオプションを選びます

3 完了確認

設定完了後、翌日から自動的にデータがBigQueryテーブルに蓄積されていきます

初回のデータ連携には最大24時間かかることがあります

BigQueryでかんたん分析！はじめてのSQL体験

はじめてのSQL文

GA4のデータを分析するための簡単なSQL文です

```
SELECT
  date,
  COUNT(DISTINCT user_pseudo_id) AS ユーザー数,
  COUNT(event_name) AS イベント数
FROM
  `プロジェクト名.analytics_123456789.events_*`
WHERE
  _TABLE_SUFFIX BETWEEN '20250101' AND '20250131'
GROUP BY
  date
ORDER BY
  date ASC
LIMIT
  10
```

💡 このSQLを実行するだけで、簡単に日別のユーザー数とイベント数がわかります！

実行結果

date	ユーザー数	イベント数
20250101	1,254	8,765
20250102	1,342	9,321
20250103	1,187	7,654
20250104	942	5,876
20250105	875	5,432
20250106	1,465	10,234
20250107	1,587	11,876

☺ **うまくいった！コードを書くのは初めてだけど、思ったより簡単！**

- これまでExcelで何時間もかけていた集計作業が、たった数秒で完了！
- チーム全員で同じデータを見られるので、認識の違いも解消！

今日のまとめと、あなたの仕事での活かし方

今日学んだ3つのポイント

GCPの設定
アカウント作成からBigQuery APIの有効化までの基本設定

GA4とBigQueryの連携
GA4からデータをBigQueryへエクスポートする方法

SQLによるデータ分析
簡単なSQLクエリでデータを抽出・集計する基礎

あなたの仕事での活かし方

今日学んだスキルは、以下のような業務シーンですぐに活用できます。

活用できそうな場面例

- **週次・月次レポート作成の自動化**：手作業からの解放
- **サイト流入経路の詳細分析**：どこから、どのように
- **フォーム送信データの分析**：ユーザー行動の把握
- **EC購買行動の分析**：購入までの導線改善
- **ユーザーセグメント分析**：効果的なターゲティング

まずは小さな業務改善から始めて、徐々に分析の幅を広げていきましょう。

やってみよう！BigQueryミニワーク

実践課題

課題：ページタイトルごとの表示回数を集計してみよう

以下のデータセットを使って、ページタイトル別の表示回数をランキング形式で出力してください。

使用するテーブル：

• analytics_【GA4のプロパティID】.events_yyyymmdd

出力に必要な項目：

• ページタイトル

• 表示回数

• 降順でランキング（最も表示回数が多いものが上位）

発展課題

特定のカテゴリに関連するページのみを抽出し、それらのページビュー数を日付ごとに集計してみましょう。

1. カテゴリを示すパラメータを特定する
2. WHERE句を使って必要なデータのみに絞り込む
3. 日付とページタイトルでグループ化する

ヒント

基本的なSQLの構造

以下の要素を組み合わせてクエリを作成しましょう：

- SELECT句：表示したい列を指定
- FROM句：使用するテーブルを指定
- WHERE句：条件で絞り込み
- GROUP BY句：集計の単位を指定
- ORDER BY句：結果の並び順を指定

参考SQLコード

```
SELECT
  page_title,
  COUNT(*) AS view_count
FROM
  analytics_【GA4のプロパティID】.events_yyyymmdd
WHERE
  event_name = 'page_view'
GROUP BY
  page_title
ORDER BY
  view_count DESC
LIMIT 10;
```

このコードは、page_viewイベントのみを対象に、ページタイトルごとの表示回数を集計し、多い順に10件表示します。

※WHERE句を変更することで、特定の条件に合致するデータのみに絞り込むことができます。